

モデル日本語教室の実施状況とその効果に関する報告書

1 モデル日本語教室の概要 < 菊川市 >

名 称	菊川市はじめての日本語教室		
目 標	日本語がほとんど話せない外国人住民を対象に、日本語教育の専門知識を持った者による対話・交流型の日本語教室を実施し、外国人住民の日本語能力の向上を図るとともに、日本人と外国人住民の交流の場とする。		
実 施 日	令和2年11月1日 ～ 令和3年1月17日		
実 施 回 数	全 10 回 （ 1回 1.5時間 ）		
受 講 者 数	実参加者 18 人 （国籍別：ブラジル 17 人、フィリピン 1 人） 延べ 96 人 （国籍別：ブラジル 90 人、フィリピン 6 人） （言語別：ポルトガル語 90 人、英語 6 人） [開講前の見込み 180 人]		
	全10回出席0人、9回出席3人、8回出席2人、7回出席1人、6回出席4人、5回出席0人、4回出席2人、3回出席4人、2回出席0人、1回出席2人		
実 施 場 所 (住 所)	菊川市小笠支所会議棟（菊川市下平川6225） ※第6回目のみ 平川コミュニティ防災センター（菊川市下平川1835）		
受講者募集方法	・チラシ配布 2,000 枚 （ 日本語・英語・ポルトガル語併記 ） ・SNS （ 市ホームページ、フェイスブックなど ）により発信 ・その他 多言語版広報菊川、自治会配布文書による		
教 室 内 容	日本語指導者・補助者	4 人	
	学習支援者	28 人	菊川市ボランティア講座受講者： 10 人
			菊川市国際交流協会： 3 人
			〇〇地域〇〇協議会： 人
			その他： 15 人
	テスター	13 人（内 日本語指導者・補助者 4 人、事務局 1 人、 学習支援者と兼務 9 人）	
	母語支援員	5 人（ポルトガル語 2 人、英語 1 人、ポルトガル語・英語 2 人）	
	特別な講師等	なし	
	各回の教室活動	別添 活動計画表、活動進行表のとおり	
備 考	・当初の計画では第 10 回日本語教室を 1 月 31 日に開催する予定であったが、会場の都合により 1 月 17 日に 2 回分の教室を開催した。		

2 効果等（モデル教室前後の変化など）

【学習者】

項 目	教 室 参 加 前	教 室 参 加 後
日 本 語 能 力	対象者 18人 聞くレベル0 1人 レベル1 11人 その他 6人 話すレベル0 7人 レベル1 8人 その他 3人	対象者 6人（最終回出席者のみ） 聞くレベル0 0人 レベル1 5人 その他 1人 話すレベル0 0人 レベル1 4人 その他 2人
	最終回出席者分のみ 聞くレベル0 1人 レベル1 3人 その他 2人 話すレベル0 2人 レベル1 3人 その他 1人	最終回出席者分のみ 聞くレベル0 0人 レベル1 5人 その他 1人 話すレベル0 0人 レベル1 4人 その他 2人
日本語の学習意欲	・日常会話ができるようになりたい ・ひらがな、カタカナが読めるようになりたい	「マンツーマンでよかった」「日本語を学ぶ良い機会になった」という意見から、意欲は高かったと考えられる。
日本あるいは居住地域への興味・関心	アンケートは行っていないが、自宅から近い日本語教室に申し込んでいることから、居住地域への興味が感じられる	アンケートは行っていないが、今後も続けたいという学習者の声から、興味が感じられる
教室への期待感	・仕事や日常生活のために日本語を学習したい ・日本人と仲良くなりたい	
教室への満足度		「参加してよかったか」という質問に対し、「とてもよかった」「よかった」が5人、「どちらともいえない」が1人だったため、満足度は高かったと考えられる。
その他特筆すべきこと ()		

※ 最終日以降に、学習者への聞き取り又はアンケートを実施し把握。

【指導者】

項 目	自 己 採 点 ・ 課 題 など
学習者の日本語能力の向上効果はあったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学習者の日本語学習に対する意欲向上効果はあったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
多文化共生の拠点として機能したか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
改善すべき点	・はじめての日本語教室を受講した後の受け皿を作る必要がある。
その他特筆すべきこと (指導者からの意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の日本語教室への継続的な参加や、学習者から「もっと日本語を勉強したい」「もう一度参加したい」という声が聞こえてきたことから、学習者の日本語学習意欲が大変高く感じた。 ・最終回に参加した学習者の日本語レベルが、0レベルがいなくなり、日本語能力が向上した。 ・旧小笠地域における初期日本語教室の需要が大変高いことがわかり多文化共生における拠点となっているが、上記の改善すべき点があることから、もう一歩だと感じる。

※ 点数部分は、最終日以降にアンケートにより把握し、その回収結果の平均値を記載。

【学習支援者ほか】

項 目	感 想 ・ 課 題 など
学習者の日本語能力の向上効果はあったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学習者の日本語学習に対する意欲向上効果はあったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
多文化共生の拠点として機能したか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
改善すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめての日本語教室を受講した後の受け皿を作る必要がある。 ・書くことよりも会話メインにしてほしい ・通訳書がいてほしい
その他特筆すべきこと (学習支援者からの意見)	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめは日本語を使うことに不安を持っていた学習者が、うまく話すことはできなくても日本語を嬉しそうに話しており、そういった学習者と日本語で会話することがとても楽しかった。学習者に会えるのを毎週楽しみにしている。 ・学習者の日本語学習意欲は大変高く、時間通りに集まり、また継続的に参加する様子が見られた。

※ 点数部分は、最終日以降にアンケートにより把握し、その回収結果の平均値を記載。

【受託者（菊川市）】

項 目	感 想 ・ 課 題 など
学習者の日本語能力の向上効果はあったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
学習者の日本語学習に対する意欲向上効果はあったか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
多文化共生の拠点として機能したか	5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1
改善すべき点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加申込時にキャンセル待ち用の名簿を作成する必要がある。 ・年をまたいで開催は避ける必要がある。 ・学習者、学習支援者双方にとって多文化共生の拠点となったと考えられるが、学習者の次の学習の場を提供できていないことからもう一歩だと考えられる。
その他特筆すべきこと ()	<ul style="list-style-type: none"> ・最終回に参加した学習者の日本語レベルが、0レベルがいなくなり、日本語能力が向上した。 ・学習社及び学習支援者の継続的な参加が見られたことから、双方の意欲の高さが感じられた。 ・日本語ボランティア養成講座の受講者や菊川市多文化共生サポーターの活躍の場、虹の架け橋の職員や菊川市及び近隣市町の国際交流協会の関係者が関わりを持つことができ、多文化共生の拠点として機能したが、さらに広域に広げていけると考えられる。 ・3月7日（日）に学習者及び支援者を対象とした意見交換の場を設定しており、意見交換の場のきっかけ作りとすることができた。

※ 点数部分は、最終日以降にアンケートにより把握し、その回収結果の平均値を記載。